

地域の 学校紹介

[宇美町立]
宇美小学校



町ぐるみで 食育プログラムを実施

豊かな山に囲まれ、安産の神様として全国的に有名な宇美八幡宮の近くにある宇美小学校は、食育に関する様々な取り組みを行っています。平成28年度に文部科学省「スーパー食育スクール事業」の実施校になり、見えてきた課題をもとに、平成29年度からは課題を継承する「つながる食育推進事業」を受託し、全国で15地区、九州では宇美小学校が唯一の指定校となりました。「食を通して学校と家庭がつながる」というコンセプトのもと、地域・学校・家庭が連携し、食事の大切さや、地産地消といった食文化への関心など多角的な視点で食育に取り組んでいます。現在はコロナ禍の影響で活動が難しい状況ですが、これまでに親子料理教室や子ども料理コンクールの開催なども行ってきました。また、保護者や地域住民で「宇美町給食応援団」を結成し、食事のマナーなどを伝える活動も実施。現在は発達段階に応じて児童自身が買い物したり、メニューを考えて作る「弁当の日」などが行われています。

先生
Voice

食の大切さと 家族に関する 感謝の気持ちを育む

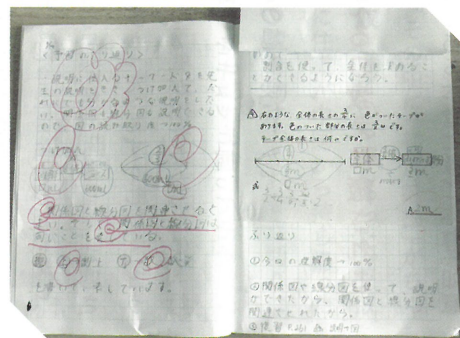


光延 正次郎校長先生(中央)
田浦 由佳教頭先生(右)
永尾 美佐栄教諭(左)

コロナ禍の影響でこれまでにやってきた食育活動が難しい中で、「弁当の日」を年3回実施しています。作ることを目的とするのではなく、家族の中でのコミュニケーションを大事にしています。6月に行った際のテーマは、福岡大空襲があった昭和20年6月19日の当時の時代背景を知り、食事ができることへの感謝を忘れないということ。「子どもが作るおにぎり弁当の日」に。具材を自分なりに考えたり、それぞれが楽しみながらも当時の大変さに思いを馳せる児童の姿もありました。他にも課題の料理に挑戦して階級を上げて名人を目指す「子ども料理名人」という取り組み

も行っています。これらの食育に関する取り組みをまとめた「もぐもぐファイル」を活用し、児童本人と保護者の方の感想などを記載して学びを深めています。私たちが実践している食育では、家族への感謝という視点を特に大切にしています。本校の児童は驚くほど給食の準備が早くて自慢なのですが、食育活動の成果が表れているのかもしれない。

も料理名人」という取り組み



「自分で決める・選ぶ家庭学習」へ転換

「させられる漢字ドリル・計算ドリル」ではなく、自立学習を育むために予習を取り入れ、練習や振り返りを大切にしているそうです。児童が自分の習熟度を振り返り、先生が提示した内容から、自分のわかり具合に合った家庭学習を「選ぶ・決める授業」へ転換を図っているのだとか。

学校独自の取り組みや特色、 地域の文化や児童の生活の様子を ピックアップ!



地域のボランティアの方に 感謝のお守りを

地域の登下校を見守る「ガードボランティア」の方を招いて感謝を伝える会などを今まで行ってきましたが、コロナ禍で難しい状況に。そんな中でも感謝を伝えるために、1年生が書いた手紙と手作りのお守りを贈りました。とても喜ばれ、お礼の手紙も届いたそうです。

